

審議結果

審議会等名称：総合計画審議会第84回計画推進評価部会

開催日時：平成31年1月28日（月）15:00～17:00

開催場所：神奈川県庁新庁舎 5階 5C会議室

出席者：◎牛山久仁彦、関ふ佐子、能登ゆか、平田美智子、小池智子、朱銘江、原嶋洋平、矢島洋子、
山本篤民、今井敏之助、岩田知二〔計11名〕
（◎部会長）

次回開催予定日：未定

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画グループ 小澤

電話番号045-210-1111（内線3066） ファックス番号045-210-8819

審議経過（議事録）

議題1 「かながわランドデザイン 第2期実施計画 点検報告書（案）」について

《資料1「かながわランドデザイン 第2期実施計画 点検報告書（案）」、資料3『「かながわランドデザイン 第2期実施計画 点検報告書（素案）」に関する県民意見募集等の概要』について事務局から説明》

- 牛山部会長：どうもありがとうございました。ただいま、（素案）から（案）になりましたことについて、ご説明いただきました。時点修正や、細かい文言修正のほか、最後のところの2ページを今回新たに作成し総括的なことをまとめていただきました。また、パブリックコメント、議会からもご意見をいただいているということです。ちなみに市町村からはどのような意見がありますか。
- 池田総合政策課長：市町村からいただいたご意見ですけれども、例えば「エネルギー・環境」のところ、京浜臨海部に大型車が集中しているという記載があるけれども、このエリアだけではないのではないか、といったご意見や、大井町に作りましたビオトピアの関係で、民間事業者と連携して未病の拠点としているのですが、民間事業者・大井町と連携してという記載があるのですけれども、県西地域が「未病の戦略的エリア」となっているので、県西地域全体で協力してやっていくという記載をしてはどうか、といったご提案をいただいているところ。あとは、表現の方法でご意見を若干いただいているところ。
- 牛山部会長：ありがとうございます。それでは皆様からご意見をいただきたいと思いますが、特に最後の2ページについては新たに追加された「点検結果」についての記載でございますので、今回初めてお示しする内容になっていますので、気になる点等ございましたら、ご意見をいただければと思います。それではどなたかいかがでしょうか。
- 岩田（知）委員：158ページに『「第2期実施計画」の点検結果』に「23のプロジェクトごとに、計画期間4年間における数値目標の達成状況を分析するとともに…一定の成果が見られました。」と記載されていますが、「一定の成果」ということについてもう少し詳しく教えていただきたい。
- 池田総合政策課長：具体的な内容はそれぞれプロジェクトのページに記載しています。
- 岩田（知）委員：個々のページを見なければ分からないということですか。
- 池田総合政策課長：こちらの総括ページは概括的なページになっておりまして、「一定の成果」と書かせていただいておりますけれども、それぞれのプロジェクトに、例えば32ページを見ていただくと「未病」

のプロジェクトで「主な取組みと成果」が33ページ以下に書いてありまして、23のプロジェクト全てを書く総括ページの紙面が不足してしまうので、それぞれのプロジェクトのページに「主な取組みと成果」を書かせていただいて、総括ページでは概括的な表現にしています。もう少し工夫が出来るか検討していきます。

- **岩田（知）委員**：個々のプロジェクトには「順調に行っている」とか「成果が得られている」とかあるいは「いま一つである」といったことが違いますよね。それをトータル的にプラスマイナスの要素を全部まとめて「一定の成果」とまとめられたのだと思いますが、まとめ方にもよるとは思いますが、最終的には「ほぼ順調」ということで「一定の成果」としてまとめているという意味でしょうか。
- **池田総合政策課長**：各年度につきましては「順調」とか「遅れている」という評価を評価報告書でしていただいているのですが、最終年度の4年目についてはそれぞれのプロジェクトについて数値目標の達成状況で「順調」とか「遅れている」という評価はしてなくて、全体として4年間の成果・取組み状況はどうですか、といった表記を今回しております。例えば未病のプロジェクトでは33ページ以下で「主な取組みと成果」を記載し、「プロジェクトをとりまく状況」を書いたうえで課題になるようなことは「今後に向けた検討事項」として最後にまとめる構成をプロジェクトごとに行っているというところなんです。いま岩田委員がおっしゃったことで、書き方でもう少し工夫が出来るか検討していきます。紙面構成の都合や総括ページに入れるべきなのかということも含めて検討させていただきます。
- **岩田（知）委員**：おっしゃるとおりページ数の問題もあると思いますが、「総括」のページなので、それまでの全体がもう少し具体的に見える形にしても良いのではないのでしょうか。そのためにはもっと紙面を割いてもよいのではないのでしょうか。ちょっと漠然とした文章になってしまいがちですよ。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。確かに「総括」だけ見る方もいらっしゃるかもしれませんが、例えばどこを見れば「一定の成果」が見られたということが分かるのだろうといったような記載、例えば、各プロジェクトのページに示した成果を見ると一定の成果が分かるといったような。総括のページを見て「一定の成果」とは何なのだろうかと思う方もいらっしゃると思いますので、前半のページに書いてあるということもお示しするようなことも工夫していただければと思います。岩田委員よろしいでしょうか。それでは他の方はいかがでしょうか。
- **小池委員**：まとめていただいてありがとうございます。言葉の使い方、整合性という点で気になった点がありますので申し上げます。159ページに『「証拠に基づく政策立案（EBPM）」の考え方を一層取り入れていく必要があります。』ということですが、その前に「政策と成果の因果関係をより明確にする手法である」とあります。最終的なまとめを拝見するに、政策と成果の因果関係を示すようなデータは残念ながらないのではないかと感じておまして、「これから取り入れていく」という表現であるならば理解が出来るのですが、「一層取り入れていく」という表現になった場合、政策と成果の因果関係を示すようなデータがどこに存在するのかということも1点伺いたしたいと思います。政策と成果の因果関係ということで言うと厳密に言えば「ランダムイズコントロールスタディ」というような形でその間には関連性だけではなく因果関係があるという、厳密に言うとそういうことになると思いますので、そこまでのことでは残念ながらこの中では、「一層取り入れていく」という表現よりは「今後これに取り組んでいく」という表現の方が正確ではないかと思ったのが1点です。それに関連して2点目として「成果」という言葉がたくさん出てきます。この「証拠に基づく政策立案（EBPM）」という言葉が159ページに出てきますので、この考え方に基づいて「成果」という言葉を捉えますとあくまでも「アウトカム」、いわゆる施策を行ったうえでの効果というニュアンスが非常に強くなると思いますが、多くのデータが「アウトプット」、実施しました、これだけ実施してこれだけ増えましたということで、あくまで「アウトプット」としての提示

がほとんどです。前回の部会の時に政策について「証拠に基づく政策立案（EBPM）」に併せたロジックモデルに則った表現を今後やっていくということであまり踏み込まなかったのですが、そういうことでいうと、成果という言葉をごどのように捉えているのかということが少し不明確になるのかなと思っています。例えば158ページの「第2期実施計画」の点検結果のところですが、主な取組みと成果というよりは、数値目標の達成状況を分析と主な取組みの達成状況ということを示しているのではないのでしょうか。成果と言って良いのかどうか、厳密に言えばどうなのかということです。EBPMという言葉が出てこなければ、従来の考え方とおおり、やったことの成果という意味なのかかもしれません、同じ総括という項目でEBPMを扱っているの、厳密に「成果」という言葉を捉えるのであれば、この部分で従来のとおりの意味合いで成果という表現を用いることが良いのかどうかということで若干の疑問がございます。

- **牛山部会長**：ありがとうございます。後段のご発言については確かに、成果を整理したら成果が見られたという文章になっているので、少し工夫していただいた方が良いと思います。また、前段の証拠に基づく政策立案ということで、厳密に言えばいろいろな課題があると思いますが、今後取り入れていくとすると、今までやっていなかったのか、証拠に基づかずに事業をやっていたのかというように捉えられる可能性もあり、事務局で言葉を足されたのかとも思います。
- **小池委員**：証拠という言葉データを基づいたという意味合いで位置付けるのであれば、データに基づいたことはやっていらっしゃると思うのですが、文章の前段で因果関係という言葉が入っていて、それはやっていないと思うのです。
- **牛山部会長**：厳密にEBPMをやってきたのかということ表現するとそうなるし、しかし、何もやってやっとなかったのかと言われればそうではないという、そのあたりで言葉の表現を事務局も苦労されているのではないかとはい思います。
- **池田総合政策課長**：EBPMの手法を確立しているところはまだなく、国も研究途中という表現をしていますし、私どもとしてもこれからEBPMの手法で進めていこうということでございます。表現として分かりにくいところは工夫させていただきます。部会長がおっしゃられたように、これまでもデータに基づいて政策立案は行ってきているところでありまして、そのあたりをうまく表現できるよう工夫していきたいと思っています。また、小池委員のご発言の後段の、取組みと成果というところについては、確かにEBPMについて記載しているので、この総括という項目でいう成果はアウトカムの成果でなければいけないのではないかとことなのではないかと思うのですが、「第2期実施計画」の点検結果の項目においては、一般論としての成果という意味合いで使用しています。EBPMについて記載はしているものの、この部分では厳密に政策との因果関係で導き出される結果と言う意味合いでは使用していません。どのようなかたちで工夫できるか、あるいはこのままの表現とするのかも含めて検討させていただきます。
- **牛山部会長**：小池委員いかがでしょうか。
- **小池委員**：なかなか難しいとは思いますが。総務省を中心に行っているEBPMの議論の中でも、データに基づいた政策と、証拠に基づいた政策立案は異なるという、今までやってきたデータに基づく政策立案をEBPMと言って良いのだろうかというような、そういう議論が行われているということをお知らせしておきたいと思っています。国レベルでもまだ検討中ということでもありますし、何がEBPMなのかということは明確に整理されていないと思っています。
- **池田総合政策課長**：県といたしましても、政策研究センターという部署が今年度の研究課題として政策立案にどうやってEBPMを取り入れるのかということを検討しているところで、明日フォーラムを開催する

予定となっています。フォーラムには総務省の方も呼び出すほか、葉山町ではごみの集配について既にEBPMの手法を取り入れてやられたという事例があるので、講演していただく予定です。県としてもどういったかたちで政策に結び付けていけるのか研究していきたいと考えています。

- **牛山部会長**：成果という言葉を使うかということと、一般的に使うか、厳密に使うかということの整理だと思います。一方で、各プロジェクトに「主な取組みと成果」という項目があって、ここではそのことを示しているかなとも思います。そうであるのであれば、「主な取組みと成果」という言葉を括弧で括って、プロジェクトのその項目を全部見た結果、成果と表現するかという問題は別にありますが、成果があるというようにしないと、成果を整理した結果、成果が分かったというように読めるので若干分かりにくいと思います。プロジェクトごとということが読めるように括弧で括るなど工夫をすれば、少し分かりやすくなると思います。成果の扱いについては少し検討ということでもよろしくお願いします。他にはいかがでしょうか。
- **矢島委員**：152ページのSDGsとの関係についてのページなのですが、SDGsを座標軸とした検証をした結果これまでの取組みと方向性が合致するという事はそうなのだと思いますが、合致するからこれからはSDGsを座標軸に見ながらやりますというだけだと、SDGsを取り入れる意味が薄いのではないのでしょうか。そうではなくて、SDGsを座標軸に照らすことで、既存の施策についても不足している視点とか新たな課題などがないか検証しながら進めるということを書かないと言葉が足りないというか、SDGsを出していることがもったいないというか、意味合いがよく分からないように思います。また、総合計画ということを考えれば、例えば男女共同参画などの分野では、課題を大括りに捉えると数十年単位で一見あまり変わっていないように見えてしまうところがあると思います。そういう意味でも、SDGsという視点を取り入れるのであれば、やはり新しい課題とか今日的な視点などを加えながら、ということを書き添えた方が良いでしょうと思います。
- **牛山部会長**：事務局いかがでしょうか。
- **池田総合政策課長**：SDGsにつきましては152ページから記載がございまして、グランドデザインとSDGsとの関係と、調査手法、今後に向けた検討事項という項目で整理しています。また、SDGsの取組方針というものを県として策定しておりまして、その方針に基づいて不足しているようなところを集中的にやっつけているところがございます。管理職における女性の割合というような話も153ページに記載してございますが、矢島委員からお話があった内容についても、このあたりにも盛り込めるかどうか検討させていただこうと思います。こちらのページと総括のページとの関係性を持たせて説明できるような記載ができればと思います。
- **矢島委員**：私が申し上げたい主旨は、159ページのSDGsの文章が少し弱いなというように感じるので、ここに少し書き加えていただきたいということです。
- **池田総合政策課長**：SDGsのページに記載している内容を総括のページにも少し工夫して盛り込みたいと思います。
- **牛山部会長**：よろしいでしょうか。他にはいかがでしょうか。
- **原嶋委員**：全体的にとってもきれいにまとめていただいて、大変な作業だったろうと思います。先ほど岩田委員からご指摘があったことですが、やはり、最後の2ページは十分注意する必要があると思います。点検結果のところでは一定の成果が見られましたと書いてあって、あとは全部別のページを見てくださいますと

ということもお気持ちとしては良く分かるのですが、やはりポイントとなるようなこと、メッセージとして、出来たことや出来なかったことなど、中身の伴った記載を1行、2行書くと良いと思います。また、留意事項について教えてください。2点目の市町村との連携、3点目のNPOなどとの連携については、27ページの政策の基本方向にも記載してありますので、留意事項が誰に対して、どのように留意させようとしているのか、分かりにくく、政策の基本方向との重複感を含めて、もう少し精査していただきたいです。持続可能な行政サービスと言うのは、予算が今後も続いてほしいという要望なのか分かりませんが、理由を教えてください。

- **牛山部会長**：ありがとうございます。それでは、事務局お願いいたします。
- **池田総合政策課長**：まず、誰に向けての留意事項かについてです。我々が政策を立案して実行していくために、27ページに記載していますが、その内容を点検して、社会環境も変わってきているなかで、2020年頃に人口がピークになるということが明確になってきました。その後の人口減少社会や超高齢社会を乗り越えていくために、どのようにすれば良いのか、今後の施策展開に向けた行政運営の指針のような形でまとめたものであると考えています。また、持続可能な行政運営につきましては、例えば、市町村のサービスなど、人口減少社会のなかで現状の行政サービスを続けていくことが困難になってくると考えています。特に市町村では、専門職員の採用が難しくなっています。例えば、土木の専門職員や保健師などの採用が難しくなっていて、市町村単独での採用が困難になっていると聞いています。そうしたなかで、県では、市町村課が中心となって採用のあり方なども検討しています。地方分権のなかで、市町村への権限移譲を進めてきましたが、むしろある程度の権限をまとめて県が行うことも必要なのではないかと検討しています。総合計画審議会の清家会長も持続可能な行政運営をしていく必要があると、総務省の2040年構想でもおっしゃっているので、加えさせていただきました。我々の課題として、人口減少社会で高齢者が増えていくなかで、どのようにして持続可能な行政サービスを実現していくのか。公助だけでは足りないので、自助・共助も必要であると考えています。以上でございます。
- **原嶋委員**：人材確保は必要と思いますが、スクラップ&ビルドの視点を踏まえることも大切だと思います。
- **池田総合政策課長**：記載については、工夫させていただきます。
- **牛山部会長**：確かに、原嶋委員がおっしゃったように、留意事項というのは工夫できないのかと思います。要するに、点検の結果、残った課題であるということですね。
- **池田総合政策課長**：そうです。将来に向けて必要な課題です。
- **牛山部会長**：点検結果を受けた今後の課題など、県民が読んで分かりやすいように工夫してください。
- **池田総合政策課長**：検討させていただきます。
- **牛山部会長**：持続可能な行政サービスについては、総合計画審議会の清家会長が、2040構想研究会において言及されていて、かなり論争のあるところとなっています。国の言うように、市町村が厳しくなっているなかで、基本的なサービスができなくなるところが出てくると思います。それに対して、どのようにしたら良いのか、かなり議論が必要だと思います。人口減少社会において、人材不足などによって、行政が担っていけなくなるようなことが一般的に読んで分かるように工夫をしていただけると良いと思います。

- **池田総合政策課長**：留意事項につきましては、新しい計画を策定するときの行政運営の指針になると考えています。また、社会環境の変化に応じた計画にしていきたいと考えていますので、部会長が言われたように今後の課題など、分かりやすく表現できるよう工夫させていただきます。
- **原嶋委員**：繰り返しになりますが、総括のページに27ページの表現を再掲しても進歩がないように思いますので、メリハリをつけて記載していただきたいです。これまでも県民の皆さんと連携してきて、今後も連携していくというのは進歩がない印象を受けます。可能な範囲で具体的に記載するなど、表現の工夫をしていただきたいと思います。
- **池田総合政策課長**：工夫をさせていただきます。
- **牛山部会長**：全体の紙面の問題があるかもしれませんが、より理解しやすいものになると良いと思います。確かに、繰り返しの表現は進歩がない印象を受けますね。
- **岩田（知）委員**：パブリックコメントについてですが、SDGsについては、全てのステークホルダーが自分の事のように捉え、お互いに情報発信して、連携して取り組みましょうということが152ページに書かれています。今回、ステークホルダーの中でも、県民から138件の意見が出てきています。1つは、これらの意見を点検報告書にどのように活かしていくのでしょうか。また、どのようにフィードバックしていくのでしょうか。そして138件という件数は少なくないでしょうか。おそらく、1人の方が何件か意見を出している方もいらっしゃるのではないかと思います。県民のどれぐらいの人が意見を発信しているのかということについて、統計的なことを考えると弱いのではないのでしょうか。そのあたりをどのように考えていますか。
- **池田総合政策課長**：まず件数についてですが、138件はあまり多くないという点についてはおっしゃる通りかと思います。なかなか「点検」ということで難しいです。「計画」の場合、例えば、前回4年前に計画を策定する際にパブリックコメントを実施した際は1,000件を超える意見が集まりました。毎年度の評価報告書も130から150件程度であり、あまり差はありません。決して少なくない良いと思っているわけではなく、例えば、「県のたより」の1月号に一面を割いて概要版を更に要約したようなものを掲載し、パブリックコメントを行っていることを周知しています。「県のたより」は全戸配布していますので、県の広報媒体としては一番有力かと思いき、実施しています。我々の努力不足ということもあるかと思いますが、なかなか集まらないのが実態です。審議会からも、大学で配布してはどうかというご意見もいただきましたので、関東学院大学で講座をする機会に概要版を配布して、授業に出ている学生の声を聞くなど、工夫はしているところです。人数を増やしていきたいという思いはありますが、「評価」や「点検」というもののなので、なかなか意見が集まりにくいのも事実です。
また、どのように反映していくのかについてですが、ご提案のうち、今後の政策としてこのようなことを取り組んではどうかというものについては、例えば、先ほど説明した観光については、宿泊観光を充実させてはどうかというご意見がありましたが、これからの政策に反映していけることには反映していきます。また、点検報告書に反映できるものについては、ご意見をまとめて記載していきます。
- **牛山部会長**：人数についてはいかがでしょうか。
- **池田総合政策課長**：申し訳ありませんが、人数については手元に数字がありません。確かにおっしゃる通り、1人の方が何件か意見を出されていて、市町村意見も含めた延べ件数が138件ということになりますので、人数はそれより少ないことになります。それで本当にパブリックコメントとして良いのかということはあるかと思いき。なかなかご興味いただけないという部分もありますし、内容が難しいというこ

ともあるのかもしれませんが。政策をもっと身近に感じられるようにしなければならないのだろうと思っています。

- **岩田（知）委員**：パブリックコメントを本当に集めようと思うのであれば、自分たちから働きかけて、意見を集めにいかなければいけません。例年、同じぐらいの件数ということであれば、手法を変更していかなければいけないのではないのでしょうか。
- **池田総合政策課長**：色々なお考えがあるかと思いますが、特定の業種・業態の方に対して聞きに行くという手もありますが、一般的にどのような手法が良いのかということについては検討させていただきたいと思います。なるべく多くの方に参加していただける工夫をしていかなければならないと認識しています。良い案があれば教えていただきたいと思います。
- **岩田（知）委員**：お伝えしたいのは、県としてせっかく良い取組みをしているのに、県民に伝わっていないのは残念だということです。意見を求めていかないと、県民も自分事として捉えられないのではないかと思います。
- **池田総合政策課長**：考えているところではあります。県として条例改正の時などにもパブリックコメントをしていますので、一般的にどのような手法が良いのか、県庁全体の課題として認識しています。
- **牛山部会長**：なるべく多くの方から意見をいただきたいというのはその通りですが、選挙にも行かない人が多くいる中、県に対して意見を述べていただくのは難しいだろうという気もします。そうは言いながら、他の部局もパブリックコメントを実施しているわけですから、県として良い手法を検討していただければと思います。ぜひ皆さんも良い案があればご提案いただきたいと思います。他にはいかがでしょうか。
- **平田委員**：159ページに「異なる分野同士の掛け合わせによる・・・「クロス」の視点を取り入れた施策」というのがイメージしにくいので、もう少し具体的に記載していただきたいです。一般の県民が読んでも、何のことかわからないと思います。
- **池田総合政策課長**：おっしゃるとおり、記載が足りないかもしれません。行政は縦割りの施策が多いのですが、高齢者の施策を高齢部門だけで行っていけば良いのではなく、住宅部門や都市計画部門も含めて、総合的に考えていく必要があるとずっと言われていますが、なかなか上手くいっていない状況です。そこで部門を越えて施策を「クロス」させることで、新たな事業展開ができないかということであえて記載をしているところです。表現については工夫させていただきます。
- **平田委員**：県民からしたら、「クロス」で展開していくのは当たり前ではないかと感じてしまいますので、県の立場、行政の立場からは難しいのはわかりますがそのあたりは是非お願いしたいと思います。
- **牛山部会長**：確かに改めて読むと我々は頭の中でイメージがあるのでなんとなくわかりますが、これだけ読むと確かにわからないかもしれません。例えば一つでも事例を入れたり、言い方を変えたりするなど、おそらく、紙面の都合上短くなっていると思います。
- **池田総合政策課長**：工夫させていただきます。
- **山本委員**：留意事項で先ほどのお話があったように、書きぶりが「していく必要があります」という表記は、県民からすると行政がこれからしていきますという表現になるのかと思います。必要がありますと

というのは、誰が誰に対して必要にしているのかが不明です。おそらく、「していきます」などの表現になると思います。

- **牛山部会長**：事務局はいかがでしょうか。
- **池田総合政策課長**：留意事項であるため「していく必要である」という表現になっています。そこは課題などの表現になるのか、我々としては「をやっていく」という前提のもとで書いてあるところです。点検報告書のためこの程度の表現にしています。当然、今後政策を進めるうえで、留意してやっていくという表現をしていくことになると思います。そういうことも含めて、必要があります、やっていきますなど、どのような表現がいいのかを検討していきます。
- **山本委員**：158、159ページの中で語尾をそろえたということでしょうか。
- **池田総合政策課長**：そういうことです。ここまでは点検した結果こういうことが必要になっていることをあえて書いています。必要になってくるのは、主に行政において必要になってくる部分です。一部県民の方にもお願いする部分もあることから書かせていただきました。
- **牛山部会長**：書き込んでしまっていていいかの問題もあります。
- **池田総合政策課長**：どこまで書いていいのかという部分があるため検討させていただきたいと思います。
- **関委員**：必要がありますというのは外部委員などが県に対して指摘していると思いましたが、神奈川県の名前でこの報告書を出しています。必要でありますというのは誰かが県に対して必要であると言っているように聞こえてしまいます。必要であることが明らかになった、見出されたなど、何か語尾を変えたほうがいいのかと思います。
- **牛山部会長**：留意事項という表現はいかがでしょうか。
- **池田総合政策課長**：タイトル、委員からいただいた意見、留意事項の表現なども含めて検討させていただきたい。必要がありますという表現もそこにあわせて検討させていただきます。
- **牛山部会長**：留意事項を変えたうえでこんな問題があると。それに対して例えばこんな取組みが必要であるという考え方を持っているということ。やりますと断定的に書けるのか、できるものできないものがあるのか、全体的にどうするのかを考えていただきます。その方向性でよろしいでしょうか。少し文章を直していただきます。
- **原嶋委員**：SDGsの部分はこんなにならないと思います。前ページに記載があるため少し触れたいという意向があるにしても、この部分だけで5行費やすのはスペースがもったいない。今色々な注文を申し上げたので、この部分を削るか、又は限りなく少なくしてもいいのではないのでしょうか。
- **牛山部会長**：事務局はいかがでしょうか。
- **池田総合政策課長**：SDGsの書きぶりについては2ページを割き、調査結果である星取り表で関連性を出しています。以前、社会環境の変化に基づく部会報告書を作っていた際に、SDGsの視点に基づく評価をしたかどうかという報告書になっているため、少し厚みを出して書いている部分があります。全体の必

要な部分を含めてまとめの部分でどの程度入れた方がいいのかを含め、課題をたくさんいただいたので、もう1ページを増やした方がいいのか、紙面構成を踏まえて整理をさせていただきたいと考えています。

- **牛山部会長**：県の考えもあると思うので、全体の分量の中で少し削るのか、1ページ増やして詳しく書いた方がいいのか。そこは少し調整してください。
- **池田総合政策課長**：文言を含めて調整します。
- **朱委員**：158、159ページはよくまとまっていると思います。委員からたくさん意見がでていますが報告書の全てを読み、この2ページを読めばすんなり受け入れられます。ただし、158、159ページだけを見たら、これは何かとなります。多くの県民は全ページ読むことは少ないと思います。そう考えると、色々な意見が出たがここしか見ない人がわかるような工夫が大事だという感想です。もう1つは質問です。パブリックコメントで138件が多いのか少ないのかという件がありましたが、手紙、FAX、メールなどの提出方法の割合はわかりますか。なぜ、こんな質問をしたかたというと、手紙が多ければ年配の方が多いイメージで、メールであれば若い方が多いイメージだからです。
- **牛山部会長**：今おわかりでしょうか。
- **池田総合政策課長**：メールと手紙が多く、FAXがほぼない状況です。年齢は特に書いていただいていないので年齢は不明です。
- **朱委員**：あともう1点。意見の中に外国籍県民からの意見はあったのでしょうか。
- **池田総合政策課長**：そこは調べていません。特に事情を聞いていないので、年齢や外国籍の方なのかについて回答をいただいているわけではありません。あえて外国籍と書いていけば分かりますが、そうでないと把握は出来ません。
- **朱委員**：なぜこの質問をしたかという、どのくらいまで幅広い人の意見が上がってきたのかが気になったからです。
- **牛山部会長**：名前は書くのでしょうか。
- **池田総合政策課長**：名前は不要です。県民か県民でないかも不要です。意見を他の県民が書いたり、神奈川県で働いている東京都民でも構いません。門戸は広げているので、やり方の工夫をしてもう少し意見を増やしていきたいと考えています。
- **牛山部会長**：ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
- **小池委員**：総括のページということで、県全体の事柄として点検がされていると思うのですが、県民の関心としては、県全体ということもそうですが、ご自分がお住まいになっている地域がどうなのだろうか、県全体ではこういう結果になっているが、自分が住んでいる地域はそうではない、といったこともあると思います。この報告書としてはここが限界だと思いますが、留意事項という文言が変わるのだと思いますが、県の中でこんな凄いベストプラクティスがある、県の中でうまくいっている事例があるわけですね。例えば何らかの事業を展開したときに物凄い参加者が多い自治体とそうではない自治体があると思うのですが、この資料が単なるまとめというだけではなく、データは「やりました」ということで終わりではな

く、次にどのように利用するかということがとても重要だと思います。他の地域のベストプラクティスに学ぶことが出来るであったり、そういうような自分の住んでいる地域に対しての視点が変わるであったり、最終的にはこの点検報告書が使われていくことが理想的なのかなと思います。そういう意味で言いますと、留意事項といま仮に書いてある事項の中に、互いに良い成果からを学び合えるようにしていきたいとか、県の中で取り組んでいるそれぞれの市町村の中のベストプラクティスを互いに学びあえる、影響しあえる、そういうようになっていくような資料に最終的には今後はしていきたいとか、そういうものがあってもよいのかなと思います。まとめて終わりではなく、県民自体がどう使っていくのか。そういうものであれば先ほどのパブリックコメントでも、県全体のことで問われているのでどう答えて良いか分からないというのが率直なところかなと思います。県民の方々は県全体についてのご意見というよりはご自分の住まわれている市町村に対するご意見は言いやすいと思います。全体のことを聞かれても分からない。というのも自分の身近なところに引き付けて考えることが出来る資料ではないからです。今回4年間の事業が終わりますので、今後というような意味合いでそれぞれの自分の市町村の位置付けが分かるような最終的にはそういう評価のあり方も今後検討し、優れた事例から学んでいけるということが出来るような資料に今後していきたいということも盛り込めたら良いのではと思います。そこに住んでいるより身近な視点になるかと思えます。

○ **牛山部会長**：はい。ありがとうございます。ご意見をいただきましたが、事務局いかがでしょうか。

○ **池田総合政策課長**：今いただいたご意見とは少し違うのかもしれませんが、例えば地域別の課題につきましては地域別の主要施策というところで142ページ以下、地域別に4年間どのようなことをやってきたかということ具体的に記載させていただいています。難しいと思うのはどうしても基礎自治体、市町村は基礎自治体といいますが、そのやっていることと広域自治体と言われる都道府県がやっていることはどうしても中二階という言い方をされてしまいますので、どうしても身近なところは答えやすいですし、広域自治体の都道府県は答えづらいという部分があると捉えているところです。また、文章の中で成功事例を記載していくというお話がありましたが、この資料の中でどのような表現をしていくのかは難しいと考えていますが、例えば我々が今やっていることで市町村の政策立案をしている部門の職員を集めて、政策研究の勉強会や、特に政策を立案するにあたって重要になる人口問題について、人口増減や人口統計をどのように扱ったらよいのか、という勉強会を毎年やっています。今年も慶応義塾大学の名誉教授の大江先生監修のもと市町村の職員に来ていただき、市町村の人口統計や状況を勉強する機会を設けたので、工夫をしながらどういった形のもの良いのか、小池先生が言われた内容をこの資料に盛り込めるのかどうかも含めて検討します。

○ **小池委員**：例えば特定健診や特定保健指導は自治体によって全く受診率が異なります。凄く高い受診率とそうではないところを県民は知らないわけですね。県の中でいくつかの指標でベンチマークが出来るような、やはり頑張らなきゃ、自分の住んでいる地域が低いのはなぜだろうということを住民が考えるような資料としての報告書の作り方が今後必要なのかなと思います。今回はこれでよろしいのかと思いますが、今後必要だと思います。

○ **池田総合政策課長**：部局の方では色々計画をつくり、例えば保健福祉部門では特定健診・特定保健指導の市町村別のデータを持っていますので、医療費の因果関係などは政策研究センターという部門で医療費と特定健診・特定保健指導の因果関係を調べ、データ分析をし、そのデータを各市町村へ提供したりしていますので、そのようなことも含めて資料中に落とし込めるかどうか工夫が出来るかどうか検討いたします。また先ほど小池先生からも今後の課題というお言葉もいただいたので今後の課題として捉えています。

- **牛山部会長**：ありがとうございます。小池委員がおっしゃられたようにぱっとこの資料を見て、県がどうするのだ、ということがなかなか県民の意識の中からつながってこないということがあるのではないのでしょうか。やはり広域自治体ということだけれど、それぞれの地域ではどのように県政と関わっているのかという視点があると良いのではないかとというご指摘だと思いますので、方向性くらいはどこかへ可能な範囲で書き込めるとよいと思います。また検討させていただきたいと思います。
- **能登委員**：先ほど朱委員のご意見と似ていると思いますが、最後のまとめのページは簡単に、わかりやすく書くべきだと思います。例えば、SDGsなどはここでは皆さん普通に使っていますが、一般の県民の方にはわかる方は少ないと思います。もしSDGsの座標軸と入れるのであれば、152ページにあるようにSDGsと少し補足してあげると良いのではないかと思います。それからパブリックコメントについてですが、意見がなかなか集まらないということでしたが、私は県民センターでパブリックコメントの紙をよく見かけるのですが、非常にシンプルで小難しそうで、一般の人の心に惹かれないような書き口で、優秀な人しかこういうものは書かないだろうというような、どこか一般の人を惹きつけないようなものが多いので、まず書き方から見直した方がよいと思います。また、一般の人は声を寄せるときに、他の人はなんと言っているのかということに凄く気にされると思います。こういった委員の先生方の声もそうですが、一般の人はどう思っているのだろう、みんなはどう感じているのだろうということを非常に考えるとと思いますので、みんなの声、他の人はこう思っていますということも反映していければよいと思います。
- **池田総合政策課長**：点検報告書のまとめの2ページにつきましては、役所の文章で書いている部分もありますので、出典としてどのページを見ていただくとわかるといった工夫をさせていただきたいと思います。それとパブリックコメントについてですが、今回のパブリックコメントの資料はお手元にありますが、パブリックコメントの資料としては比較的良い方だと思います。全体像をまとめ、課題や検討事項など、こういったことを考えているといったことを示して、ご意見をお寄せくださいといった形をとっています。他のところでは、紙1枚に厚い冊子をつけて意見をくださいといった形のものもある中で、概要版をこのようにカラー刷りでまとめているところは少なく、意見数が少ないといった課題もありますが、見た目も書きやすいように工夫をしているところです。まだまだ勉強不足な部分もあるので、今後も工夫をしていきたいです。厚い報告書全部を読んでいただくというのは難しい面もあるので、今後も概要版という形で、主だったものをまとめるとともに、「県のたより」などにもわかりやすい形で掲載するなど、より多くの方にご意見をいただけるようにしていきたいと考えています。
- **牛山部会長**：能登委員からもご指摘のあった、皆さんからも、ここに書いてあるのはどこにあるのかわからないといったお話もあったので、どの程度できるかはわかりませんが、何ページを見てくださいといった工夫ができればと思います。
- **池田総合政策課長**：参照できるようところで、特に中心となる部分については工夫をします。
- **関委員**：参照の仕方ですが、中心になるところだけを参照するのか、例えば、基本構想は何ページから、基本目標は何ページからなど、各項目にページを入れておけば、文字数もとらずに整理ができるのではと思います。
- **牛山部会長**：見栄えのこともありますから、できるだけ努力するといった形をとって、必ず見ていただきたいところは記載するなど、書き方の工夫をしていただければと思います。
- **関委員**：先ほどから、具体的な事例といったお話がありましたが、このページにすべて書き込むのは無理だと思うので、例えばホームページにリンクできるQRコードを入れるとか、アドレスを入れるなど

の工夫や仕掛けをしていくといった方法もあるかと思います。また、パブリックコメントについて、年代の話がありましたが、若い人から意見をとるのであれば、FacebookやTwitterなどで、簡単に意見を送れる形をつくっていかないと難しいのではないかと思います。あと、細かい点で気になった部分、一文が長いなどについて、後ほど事務局にお伝えします。

- **岩田（知）委員**：基本的な質問ですが、県の文章というのは、例えば、総括は2ページ以内にしないなどといった決まりがあるのでしょうか。
- **池田総合政策課長**：そのようなことはありません。
- **岩田（知）委員**：そうすると、先ほどからたくさんの意見が出ていましたが、総括というのは、良い点・悪い点を書いてあって、どのような状況が見ればわかる内容になっているべきで、いろいろな肉付けのお話が出たので、ページ数を増やしてもインパクトのあるものをつくっていかれた方がよいのではないかと思います。せっかくお金をかけて工夫されているので、こうしたものを実践に移していくにはどうしたらよいかということ掘り下げていただきたいと思います。それが県民のためにもなると思います。
- **牛山部会長**：ページを増やすことも視野に入れてということで、検討してください。とはいえ、これが6ページにも8ページにもなると、これはこれで読まないということにもなりますから、その辺のバランスを見ながらお願いします。
- **今井委員**：プロセスで確認したいことがあります。今回、点検報告書の案ということでお配りいただいて、素案でパブコメをかけて、案になって議論を行っている段階であると思いますが、そのパブコメをかけて案になるまでの間に、パブコメの意見を案に反映させたものが案になって出てくるイメージをしていましたが、今後、出てきた意見が点検報告書に反映されていくということになるのでしょうか。
- **池田総合政策課長**：パブコメの締切が1月21日であり、現在集計し、どのような形で反映していくかについて所管局と調整を行っているところであり、2月7日の審議会までには、この部会で出た意見も含めて、いただいた意見を反映させた案をまとめ、審議していただく予定となっています。それまでの間に、点検報告書に反映できる意見は反映し、意見によっては今後の施策の展開の中に反映させていくものもあると思っています。また、実際に取り組んでいるものに対する意見もあります。先ほどの能登委員からのお話にも関連しますが、パブコメの結果については、どのような意見が出たのかというのは全てホームページで公表することになっており、一般の方がどのような意見を出されていたのかというのは、ホームページを見ていただければ分かるようになっています。意見への対応状況もあわせて掲載します。
- **牛山部会長**：反映状況も載りますよね。意見を反映できるものは反映するし、今後の参考とするものについては参考とさせていただき、なおかつ、パブリックコメントですから、どのような意見が出て、県がどのように対応したかといったものも公表されていくということです。
- **今井委員**：気になったのは、意見を反映したものについて、集まった先生方の議論がなくていいのかという点です。
- **池田総合政策課長**：時間的な問題で、この場に反映したものをご用意できればよかったのですが、間に合わなかったため、いただいた意見の概要として資料3を用意させていただいたところです。
- **牛山部会長**：細かいことですが、159ページに5つの地域政策圏のめざすすがたというのがあって、そ

の下のプロジェクトの推進の段落に4年後の姿というのがありますが、片方ひらがなで、片方漢字となっていますが、これは、どこかからの引用でしょうか。

- **池田総合政策課長**：4年後の姿は、漢字で実施計画プロジェクト編の7ページから引用で、地域政策圏のめざすがたは、基本構想の地域づくりの基本方向のところ、例えば29ページにひらがなで表記されているところ、策定の時点などにより整合がとれていない状況です。基本構想は平成24年3月に作っており、総合計画は平成27年7月に作っています。できるだけ整理していきたいと思いますが、基本構想を見直すには、議決が必要です。
- **牛山部会長**：それぞれ使い分けられていることが、わかりました。
- **原嶋委員**：全体のプロセスについて、お聞きしたいのですが、158ページの「23のプロジェクトについて一定の成果が見られました」は、手ぬるい評価だと思いますが、次の段階として、基本構想は全体としては、今、半分ぐらいの時期に来ているかと思われます。2012年ぐらいから始まり、2025年までとなると、タイミングとしては折り返しの時期ではありませんが、次のステップとして、23のプロジェクトについては相変わらず同時並行的に留保していくのでしょうか。それとも、その中で優先順位とか、重きを置くとかして、変えていくことを考えているのでしょうか。23のプロジェクトをずっと継続して評価していくのか、それとも、例えば23のプロジェクトを倍の46に拡散していくのでしょうか。イメージとしては、どういうプロセスをこれからの7年間ぐらいに、首長が変わるなど政治的な変化もあるかもしれませんが、どういうイメージでいるのでしょうか。
- **池田総合政策課長**：基本構想は、2025年の姿を描いており、計画については4年毎に作っているため、今年度が2期計画の最後の年となり、2019年度からは計画がない状態となっています。一般的に考えれば、当然2025年を目指しており、点検結果にも目指すべき姿は変わっていないと表現しているので、基本的には計画を次の知事選挙が終わった後に判断することになります。例えば4年前の状況では、選挙が終わった後に部会、審議会を開催し、新計画の案を作っています。首長が変わった時には、1年空白の期間を置いたりすることもあります。首長が変わらないということであれば、速やかに計画を作るということで、前回は、知事が変わらなかったということもあり、7月末に計画を作っており、そこから4年間が計画期間となっています。選挙次第ではありますが、状況に応じて進めていくこととなります。プロジェクト数も23本が良いのか、それとももっと増やした方が良いのか、プロジェクトの内容も現状のプロジェクトと同じ内容で良いのかなど、計画の原案を作成するので、審議会や議会で議論いただきたいと思います。また、課題や社会環境の変化も踏まえて、議論させていただきたいと思います。その結果、プロジェクト数が23本になるかもしれませんが、もっと増えるかもしれません。ただし、プロジェクトというのは、集中的に予算を投下して、取り組むものであると考えているので、そんなに多く増えるものではないと考えています。そうでないと、主要施策のようになり、個別の事業になってしまうので、ある程度絞り込むことが必要かと思われます。
- **原嶋委員**：当然、政治的な民意を汲み取ることも必要かと思いますが、普遍的な問題もあり、個人的には大きな基本構想の中で拡散するよりも絞り込むことによって、より本質的な問題を抽出していくことが理想的だと思っています。ずっと連携、連携で4年間進んでいるものなど、なかなか難しいこともあるかと思いますが、その時代時代の優先順位でどこかをクローズアップするなど、性質の問題もあり一概には言えませんが、部局の方でもご検討いただき、クロスのアプローチで頑張っていただきたい。
- **池田総合政策課長**：マニフェストなど新たに知事になった方の政策を盛り込まなくてははいけませんが、普遍的に変わらない部分もあるかと思っています。

- 原嶋委員：決して、政治に介入する意味ではありません。
- 池田総合政策課長：プロジェクトをいくつか組み合わせて、戦略的に行っていくという考え方については残していくと考えています。
- 牛山部会長：本日、ご議論いただいた「かながわグランドデザイン 第2期実施計画 点検報告書（案）」については、特に最後の2ページについて具体的な内容やページを増やすことも含めてご意見いただいたので、ご意見を反映する形で対応し、それを総合計画審議会の全体会の方に報告していきたいと思っております。その審議を踏まえ、議会への報告、最終的な報告書として確定となるので、皆様からいただいたご意見、また本日ご欠席の委員からのご意見を十分に察するように配慮しながら、私の方で預からせていただき、事務局と調整をさせてもらえればと考えています。よろしいでしょうか。
- 小池委員：総括だけではなく、プロジェクト部分などについて、追加してもらいたい要望は、事務局に投げかければよいでしょうか。
- 牛山部会長：具体的にはどのような内容でしょうか。
- 小池委員：例えば、最近知ったのですが、129ページの「ヘルスケア・ニューフロンティアの推進」の中で、WHOが推進している「エイジフレンドリーシティ&コミュニティ」に関しては、全国に先駆けて神奈川県では22市町村が参加しているというような、良い取組みがまだまだあるので、それを報告書の中に盛り込まないともったいないと思うので、事務局に投げかけ、加えていただきたいと思っております。
- 池田総合政策課長：「エイジフレンドリーシティ」については、131ページのグローバル戦略に入れていますが、見えにくいということもあるので、意見として1月30日までにご意見をいただければ、当課で整理し、部会長と相談後、総合計画審議会に報告していきたいと考えています。
- 牛山部会長：よろしいでしょうか。
- 一同：（異議なし）
- 牛山部会長：それでは、事務局と調整しながら皆様のご意見を反映させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。本日の議事については、以上となりますが、事務局の方から何か連絡事項はありますか。
- 池田総合政策課長：ありません。
- 牛山部会長：皆様から何かございますか。
- 一同：（特になし）
- 牛山部会長：よろしいでしょうか。それでは、皆様から様々なご意見をいただきましたので、総計審に報告して行きたいと思っております。大変活発で有益なご意見をいただきまして、ありがとうございました。以上を持ちまして、本日の部会を閉会いたします。